

令和2年(2020)4月 入域観光客数概況

7万7,300人
対前年(H31)同月比 -77万4,100人、-90.9%
～減少数、減少率ともに過去最大の減少～

入域状況

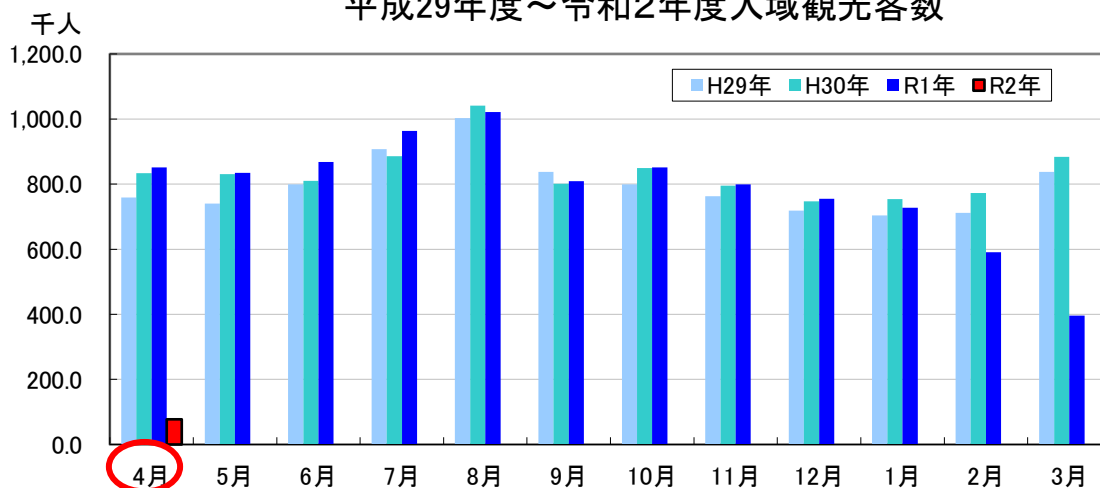
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	77,300 人	601,100 人	△ 523,800人	△ 87.1%	100.0%
外国客	0 人	250,300 人	△ 250,300人	△ 100.0%	0.0%
合計	77,300 人	851,400 人	△ 774,100人	△ 90.9%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	77,300 人	601,100 人	△ 523,800人	△ 87.1%	100.0%
外国客	0 人	218,600 人	△ 218,600人	△ 100.0%	0.0%
合計	77,300 人	819,700 人	△ 742,400人	△ 90.6%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、航空便の運休・減便に加えて、国の緊急事態宣言が行われ、全国に不要不急の旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年同月を大きく下回った。

5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、台湾、中国、香港、韓国等の地域を対象に国による厳しい入国制限の措置がとられたことから、皆減となった。

5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれること等から、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	35,700 人	279,500 人	△ 243,800人	△ 87.2%	46.2%
関西方面	15,900 人	124,100 人	△ 108,200人	△ 87.2%	20.6%
福岡方面	11,400 人	74,900 人	△ 63,500人	△ 84.8%	14.7%
名古屋	6,100 人	54,400 人	△ 48,300人	△ 88.8%	7.9%
その他	8,200 人	68,200 人	△ 60,000人	△ 88.0%	10.6%
合計	77,300 人	601,100 人	△ 523,800人	△ 87.1%	100.0%

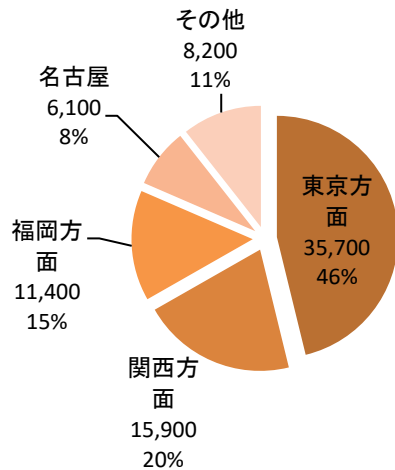
※国内海路客400人を含む(鹿児島400人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	84,800 人	△ 84,800人	△100.0%	-
韓国	0 人	0 人	42,000 人	△ 42,000人	△100.0%	-
中国本土	0 人	0 人	46,900 人	△ 46,900人	△100.0%	-
香港	0 人	0 人	25,400 人	△ 25,400人	△100.0%	-
アメリカ	0 人	0 人	3,600 人	△ 3,600人	△100.0%	-
タイ	0 人	0 人	2,600 人	△ 2,600人	△100.0%	-
シンガポール	0 人	0 人	1,500 人	△ 1,500人	△100.0%	-
その他	0 人	0 人	43,500 人	△ 43,500人	△100.0%	-
合計	0 人	0 人	250,300 人	△ 250,300人	△100.0%	-

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
韓国	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
中国本土	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
香港	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
アメリカ	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
タイ	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
シンガポール	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
その他	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-
合計	0 人	0 人	△100.0%	-	0 人	0 人	△100.0%	-

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、航空便の運休・減便に加えて、東京都等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

大阪

4月は、航空便の運休・減便に加えて、大阪府等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

福岡

4月は、航空便の運休・減便に加えて、福岡県等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

名古屋

4月は、航空便の運休・減便に加えて、愛知県等で旅行自粛要請が行われたこと、また、沖縄県知事からも来県自粛を呼びかけたこと等から、前年を大きく下回った。
5月は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う航空便の運休・減便が拡大していること等から、一層厳しい状況が予想される。

台湾

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、台湾に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から、皆減となった。
5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、韓国全域に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から皆減となった。
5月は、航空便の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、引き続き団体ツアー等の商品販売が中国政府により禁止されていることに加え、中国全域に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から、皆減となった。
5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

4月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、香港政府が日本への渡航レベルを引き上げていることに加え、香港に滞在歴のある外国人が上陸拒否の対象となったこと等から、皆減となった。
5月は、航空便の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。